



学校だより

東京都立府中けやきの森学園
〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1
TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476
<https://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp>
令和8年3月19日(金)発行 第14号

地域の中の学校として

校長 相賀 直

本日の高等部卒業式で巣立って行った卒業生の皆さん、心からお祝いをいたします。3年間の高等部の生活で身に付けた多くのことを、これから社会の中で生かしていけることでしょうか。府中けやきの森学園は、小学部、中学部、高等部があり、小学部1年生から在学している人は、12年間、この学び舎で学んできました。24日には、小学部・中学部卒業式があります。多くの方はそのまま本校の上級学部に進みますが、他の学校に進学する人もいます。成長の一つの節目としてお祝いをいたします。

本校は、府中市を中心に9市にまたがる学区域をもっています。そこから学校に通い、卒業後は地域の中で、地域の方々に支えられ生活していきます。そのため、本校に在学している間から様々な形で地域とのかかわりをもてるようにしています。代表的なものは交流活動です。学校間交流では、白糸台小学校、府中第四小学校、府中第二中学校、府中東高等学校との長い交流の歴史を刻んできています。その他、最近では、ポッチャなどをおして、小柳小学校、府中第一中学校、府中工科高等学校、府中西高等学校とも交流が広がっています。副籍交流では、居住地の学校に行き、一緒に授業や行事に参加しています。今年もたくさんの児童・生徒が副籍交流を行いました。来年度以降、さらに多くの方が参加してくれることを願っています。高等部の生徒は、現場実習で、地元の企業や福祉事業所にお世話になり、社会人としての態度や技能を実地で学びました。

本校の児童・生徒も、地域の方々のために役立つ活動を少しずつ広げていきたいと考えています。現在取り組んでいるSDGsプロジェクトで作った野菜くず堆肥を使って育てた花を地域の方に配ったり、堆肥を製品として配布したりする活動を広げて行きます。

学校と福祉事業所とのつながりも深めていきます。来年度から学校で使う教材等を作業所に委託して制作してもらいます。このことにより、作業所で働く本校卒業生にとっても、母校に貢献しているという意識を涵養することが期待できます。また、生活介護施設と連携し、ICT教材を中心に、学校で使っていた教材・教具を施設でも使う取組をおして、生涯学習につながる取組も始めます。

このように、本校は地域の子供たちが、地域とのかかわりながら成長し、地域の中に巣立って行ける学校を引き続き目指していきます。

本校に関係するすべての皆様に感謝とこれからの末永いお付き合いをお願い申し上げます。

お問合せ

御連絡は、下記までお願いいたします。

◇平日（午前8時30分から午後6時まで） 042-367-2511（学校の代表番号）

一貫した支援のために

副校長 法月 英里

特別支援学校は、教育、医療、福祉、労働等の各分野と連携し、障害のある子供たちの乳幼児期から卒業まで一貫した支援を目指しています。このために、担任は「学校生活支援シート」（個別の教育支援計画）を作成し、保護者の方とお子様の関係機関を確認、必要に応じて連携を図ってまいりました。シートに記載した内容は、進学先の教職員に、高等部の卒業生は、「個別の移行支援計画」として進路先に送り、お子様への支援が一貫して行われるよう確実に引継いでまいります。3学期の個別面談での御協力、ありがとうございました。面談では、「個別指導計画」の内容も御確認いただきました。私たち教職員は「学校生活支援シート」、「個別指導計画」の二つの大きな個別の教育計画を作成することによって、指導の充実を図るとともに、自らの実践を振り返り、さらにより教育活動を目指す方向を確認しております。

お子様の成長を励みに、その喜びを糧として、今後も教育活動に邁進してまいります。

1年間、御協力をいただきましてありがとうございました。

卒業・進級の季節に

副校長 宮本 光司

この冬、A・B両部門の高等部の卒業遠足に行ってきました。この時期の3年生の皆さんと一緒にいると、クラスや学年で3年間を共にした仲間たちをさりげなく意識して行動していることが伝わります。何気ない言葉や視線のやり取りに、和やかで穏やかな時間を感じます。4月からは社会人となり、私たちと同じ大人の仲間です。御家族の中でも、親子という関係は変わらずとも、様々な形で御家族を支えてくれることでしょう。

毎年、生徒たちの卒業には、卒業学年担任をはじめとした高等部の教職員一同、特別な思いがあります。自分に合った形の就労を選んだ人、新たなチャレンジに向かう人、自分が進みたい道を考えながら一步を踏み出そうとしている人もいます。良いこともあれば思い通りにならないことも多々あるのが社会です。その社会で自分らしく生活していくための力を少しでも伸ばし、送り出すことができたでしょうか。自問しながら、高等部教育の役割を強く意識するのが、卒業・進級の季節でもあります。卒業生の皆さんの新しい生活が素敵なものであることを祈っています。御卒業おめでとうございます。

子供を中心に、共に支え合って

副校長 福永 顕

この一年間、子供たちは様々な行事や毎日の授業を通して、一人一人の特性やペースに応じた学びを積み重ねてきました。「わかった」「できた」という喜びを実感し、小さな成功体験を自信へとつなげてきた姿が多く見られました。そうした子供たちの成長した姿に触れることは、私たち教職員にとって大きな喜びであり、日々の励みとなっています。一方で、指導や支援が思うように進まない場面があることも事実です。そうした状況においては、子どもを中心に、教職員・保護者・関係諸機関の方々がそれぞれの立場や専門性を生かし、円になって支え合うことが何より大切だと考えています。日常の小さな変化や気付き、喜びや悩みを共有し合うことで、子どもへの理解はより深まり、より適切な支援へとつなげることができます。成長の喜びを共に分かち合い、悩みや不安を一人で抱え込むことなく和らげながら、今後も子供たちにとって安心できる支えとなる学校であり続けたいと考えています。

保護者の皆様、関係諸機関の皆様、1年間、本当にありがとうございました。

今年度の研究・研修活動について

研究研修部 指導教諭 安仁屋 政秀
指導教諭 田中 美成

ウェルビーイングを目指したカリキュラム・マネジメント

この研究テーマのもと、様々な研究活動や研修会等を行い、教職員の専門性向上や、教育実践の交流に努めました。

1 「生活単元学習」や「作業学習」の指導内容の見直し

「生活単元学習」や「作業学習」などは、「教科等を合わせた指導」であり、「国語」「音楽」のように単独の教科を学ぶものではなく、いくつかの教科等（道徳や自立活動なども含む）を合わせて学ぶものです。知的障害のある児童・生徒に対して、「実際の生活に即した場面を単元化できる」「子どもたち自ら主体的に学習に取り組むことができる」などの効果がある一方で、指導内容が多岐にわたるため、授業づくりには難しさも生じます。活動を充実させようと様々な工夫した結果、教えるべき内容がぼやけてしまうこともあります。

今年度は、「この学習は、どの教科とどの教科を合わせて指導しているのか」を書き出したり、チェック表でバランスよく指導しているかを確認めたりする作業などを行いました。来年度以降の年間指導計画の充実につなげていきます。

2 キャリア・パスポート

キャリア・パスポートとは、児童・生徒が学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う際に活用するための、「児童・生徒の活動を記録し蓄積する教材」といえます。

肢体不自由教育部門の準ずる教育課程では、「けやき版キャリア・パスポート」の作成に取り組みました。学期ごとに自分の学びを振り返ったり、年度末や卒業などの時期に自分の成長を確認めたり将来を考えたりする内容です。来年度は、どの時期にどの時間割の中で行うかなど、カリキュラムへの位置付けを検討していきます。

3 一人1実践：研究授業、授業観察、教材展

全教員が、研究授業、授業観察・助言、教材展への出品から1つ以上を選んで、実践しました。1年間で、159の研究授業が行われ、延べ510人の教員が授業を観察しました。8月末に行った「教材展」には46の教材が展示され、他部門や他学部の教材もとても参考になりました。学校の中で日常的に行われる「授業」や「教材づくり」を、教員の学びの場としても活用しています。

4 自立活動充実プログラム

自立活動は、特別支援教育の要となる指導です。すべての教科等の学びを支え、児童・生徒の人格の形成に欠かせないものです。その充実のため、個々のニーズに合わせて学べる研修を行いました。

1つは「オンデマンド研修」で、自立活動に関わる動画リストを作成し、1年間で18ポイント分の動画を選んで、各自のペースで視聴するようにしました。

もう1つは「ワークショップ」です。児童・生徒の事例を用い、その子供の行動や様子から垣間見える「困難さ」や「課題のつながり」を考え、児童・生徒への理解を深めることができる、希望者参加型のグループワークです。いろいろな部門や学部の教員が共に学ぶよい機会となりました。

このほかにも、東京都の指定を受けて「学習者用デジタル教科書」の研究活動、情報部と連携してICT教材の活用推進や研修会などを行ってきました。

来年度は「ウェルビーイング」をテーマにした3年間の研究のまとめの年となります。引き続き、よりよいカリキュラム作りに取り組んでいきます。

卒業生進路報告

進路指導主任 主幹教諭 吉田 久明

保護者の皆様、今年度も進路指導への温かい御理解と御協力をいただき、心より御礼申し上げます。

本校では、小学部から高等部まで一貫して、児童・生徒一人一人が「自分らしく成長していく」ウェルビーイングを大切にし、その特性に応じて「できること」を積み重ねていく学びを進めてまいりました。小学部では生活の基礎づくり、中学部では活動の幅を広げる力を育て、高等部では社会につながる力へと発展させています。これらの学びは、日々の御家庭での支えがあってこそ実現できたものです。あらためて感謝申し上げます。

本年度の卒業生の進路について御報告いたします。生徒一人一人が見学や体験を重ね、自分に合った環境を選び取る姿が印象的でした。保護者の皆様の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。

今年度の高等部は、A部門から9名、B部門56名がそれぞれの進路を選択しました。企業就労が10名、一般就労へ向けた準備を行う就労移行支援には1名、働く場を提供する就労継続支援A型へ1名、B型へ13名が進路決定しています。さらに、生活の幅を広げる生活介護にはA部門から9名、B部門から25名、自立訓練には3名、その他の進路を選択した生徒が3名となっています。いずれの進路も、自らが自分らしく生活し、安心して力を発揮できる場を選んだ結果です。

今後も、生徒一人ひとりが次のステージで豊かな日々を送れるよう、学校として引き続き支援を続けてまいります。

～野菜くずの冒険 1年間の取組とその成果～

知的障害教育部門中学部 主幹教諭 柳 明良

本校では、今年度「けやきSDGsプロジェクト」として、野菜くずを堆肥にし、その堆肥で野菜や花を育てる取組「野菜くずの冒険」に全校で取り組みました。本活動は、SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」に関連し、資源の循環や持続可能な社会について学ぶ教育活動です。

給食調理室から出た野菜くずや、児童・生徒の家庭から持参した乾燥野菜くずを活用し、微生物の力で「完熟堆肥」を作りました。その堆肥を使って、校内の畑やプランターで野菜や花を栽培しました。また、活動への意欲を高めるため、ポイントカード制度を導入し、11月の文化祭や3月には、貯まったポイントに応じて堆肥やチューリップの種、さつまいも、マドレーヌなどと交換する取組を行いました。

1年間をとおして、「野菜くずは捨てるものではなく資源」「自分たちで育てた野菜を食べるのが嬉しい」といった声が聞かれ、学習意欲や環境意識の高まりが見られました。

本取組は、給食調理室の皆様をはじめ、日頃より御協力いただいた保護者の皆様の支えがあってこそ実現しました。心より感謝申し上げます。春には作太郎の前にチューリップが咲く予定です。今後も家庭や地域とつながりながら、持続可能な社会の担い手を育む教育活動を継続してまいります。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度学校運営連絡協議会報告

教務部主任 主幹教諭 井上 学

今年度の学校運営連絡協議会は、学校だより第4号で御紹介させていただいた10名の協議会委員の皆様と本校の管理職及び主幹教諭で構成し、1年間にわたって本校の学校経営について協議を行ってまいりました。

2月20日（金）に行った今年度最終回の協議会では、保護者の皆様に御協力いただいた学校評価アンケートの結果について検討を行い、今年度の学校経営について評価するとともに、来年度に向けての提言をいただきました。

全体的に肯定的な評価の多かった保護者アンケートの分析をもとに、今年度の学校経営について、成果のあった項目を三点挙げていただきました。一つ目は、児童・生徒一人一人のウェルビーイングをめざした教育の実現に向けた努力の成果が出てきていることについてです。保護者会での「ウェルビーイングの三つのポイント」の説明や学校だより等での経過報告、SDGs等の具体的な取組の結果によるものと評価していただきました。二つ目は、学校からの情報発信についてです。学校だよりやホームページ等での情報を可能な限り詳細に伝えるように心がけたことや担任教員から家庭への情報の発信も丁寧で細かいものとしたこと等を評価していただきました。三つ目は、カリキュラム・マネジメントの成果により「児童・生徒が『学ぶ楽しさ』『活動する喜び』を味わうことができる授業を行うための授業改善が進んでいることを挙げていただきました。

逆に、課題となる点についても三点を挙げていただきました。1点目は、「ICT機器を活用した指導」についてです。昨年度までと変わらず、保護者の満足度はとても低いものとなってしまっていることです。保護者に活用状況を十分に伝えられていない状況を変えとともに、一人1台端末の活用による効果や取り組み方について保護者と教員で共有しながら、個別最適化された学びの実現に向けた指導を進めるよう御指摘いただきました。2点目は、学校施設についてです。築30年を超えた老朽化による不具合への修繕等の対応は適切なものと評価するが、児童・生徒の安全・安心と教職員の働きやすい環境を整備することは、学校として重要な役割であることを認識する必要があることと、校舎大規模改修までの間の施設を安全に管理できるよう東京都教育委員会との連携をさらに強めるよう御指摘いただきました。3点目は、教職員の働き方改革です。学校では、これまで様々な対応をしてきて、目安とされている勤務時間外在校時間が45時間を超える教員数が減少していることは一定の成果ではあるが、現在の取組に満足している教職員は半数程度しかいない状況を指摘されました。働き方の課題は、具体的な業務（ハード）に加えて、意思疎通や会議のもち方、良好な同僚性等のソフト的な側面も踏まえた上で、チーム学校としての職場づくりを目指すこと。そして、学習上、生活上にさまざまな制約のある府中けやきの森学園の児童・生徒を護り、育てていく努力を期待するとともに、それらの努力を保護者にもわかりやすく伝え、児童・生徒の豊かな学びの環境を構築するよき理解者、協力者になっていただくことを目指してもらいたいという御指摘を頂戴しました。

そして、最後に、本校の学校経営計画の柱となっている「自他ともに幸せに、より良く生きていくことをめざしたウェルビーイングの実現」は、この3年間で確実に実現に向かってきている。今後も、これまでの実践を継続し、学校経営目標の実現を目指してほしい、とまとめていただきました。

来年度以降、これまでに築き上げてきたことをさらに発展させていきたいと考えています。